

言葉は私たちにとってとても大切なものです。その中で生かす言葉と、殺してしまう怖い言葉どちらを使っていますか？否定的な言葉を語る人達の周りには、否定的な事を言う人が集まりやすいようです。私たちが発する言葉にはとても影響力があります。生かすも殺すも言葉次第です。では、どういう言葉によって生かされていますか？否定的な言葉で協調していないでしょうか？本音が偽りの言葉か？心で思っている事と、口から出た言葉が、違うと場合があります。本音とは違っているのに制御出来ないのが言葉です。「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。（ヨハネ15：7）」神様のことばにとどまっている事が、出来れば願いが叶えられる事を教えて下さっています。正しい言葉を語ることが出来るなら、自分も幸せになり、周りの人たちも幸せになります。ため息をついてしまうことが、あるのではないのでしょうか？しかしため息ではなく、今日も元気で行くぞ！と言った方がよっぽどやる気が出て良い行動に移す事が出来ます。悪い言葉を発してしまった時、言葉は生きていますので適切に処理しないとイケません。ダビデは神様を自分の前に置いて正しく処理していきました。「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です（詩篇119：105）」

サウル王は言い訳をしてしまい、神様に愛される行動をする事が出来ませんでした。ダビデは言い訳をするのではなく、ごめんなさいをしました。正しく処理したので、神様に愛され続ける事が出来ました。何ども失敗しましたが、その都度、神様に悔い改める事が出来ました。「ダビデが自分の家族を祝福するために戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、きょう、ほんとうに威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、きょう、あなたは自分の家来のはしための目の前で裸に おなりになって。」ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで主の民イスラエルの君主に任じられた主の前なのだ。私はその主の前で喜び踊るのだ。私はこれより、もっと卑しめられよう。あなたの目に卑しく見えても、あなたの言うそのはしためたちに、敬われたいのだ。」サウルの娘ミカルには死ぬまで子どもがなかった。（Ⅱサムエル 6：20-23）」

ダビデは神様を常に意識して、神様がして下さったことに感謝して賛美を捧げました。しかし、その姿を見たミカルはバカにしてしまい、子供が出来ませんでした。仕方がないと言って、あきらめていませんか？仕方がいっぱいあるのに、仕方がないと言ってしまいやすいと思います。仕方がない事は神様にあるのなら絶対にありません。ただ神様のことばを聞かないだけです。神様の前にありのまま出れば良いのですが、神様はずっとそのまま良いとは言っていない。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。（Ⅱコリント 5：17）」古いままではなく、新しくされ続けなくてははいけません。「あなたがたのことばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるようにしなさい。そうすれば、ひとりひとりに対する答え方がわかります。」イエス様は必要なことばを語って行きました。サマリヤの女性に対しても必要な事を語りました。「ひとりのサマリヤの女が水をくみに来た。イエスは「わたしに水を飲ませてください。」と言われた。（ヨハネ 4：7）」そして「女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。（ヨハネ 4：25～26）」

イエス様のことばによって、人が生かされ奇跡が起こりました。「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。（エペ4：29～30）」否定的な言葉を発していると救われません。聖霊様が喜ばれる言葉ではないからです。私たちの生かすことばによって奇跡が起こります。否定的な言葉を語るのではなく、神様にある自分が生かされ、人々が生かされることばを語っていきましょう。（要約者：渡辺将宏）